

平成 28 年度（2016 年度）
京都市立芸術大学 美術学部

入 学 試 験 問 題

京都市立芸術大学

Kyoto City University of Arts — founded in 1880 —

2016年度 実技試験問題

科目 描写

時間 9時00分～13時00分

与えられた^{ちょうちん}提灯1個、石けん1個、ネギ1本を台紙上に配置し、鉛筆で描写しなさい。

●準備

1. ^{ちょうちん}提灯は試験が始まってすぐに監督者の指示に従い組み立ててください。
2. 石けんは包装から出してください。包装は回収します。

●条件

1. 与えられたすべての対象物を描写すること。
2. 対象物はすべて加工せずに描写すること。

【支給されるもの】

^{ちょうちん}提灯1個、石けん1個、ネギ1本

解答用紙1枚、台紙1枚、両面テープ1枚、カラーカード1枚

【使用してよいもの】

カルトン（56cm×40cm以上）、カルトン用クリップ、鉛筆（色鉛筆は除く）、消しゴム、羽ぼうき、カッターナイフ（鉛筆削り用）

【注意】

1. 解答用紙は縦横自由です。どちらを表にしてもかまいません。
2. 解答用紙と台紙は同じものです。どちらを解答用紙にしてもかまいません。
3. 席を立たずに、腰をかけたままで描写しなさい。
4. 試験終了15分前にカラーカードの貼り付け作業を行います。

【描写:モチーフ】



2016年度 実技試験問題

科目 色彩

時間 14時30分～17時30分

与えられたみかんをよく観察し、^{にじ}滲みの表現を取り入れて
色彩で構成しなさい。

●条件

1. 彩色には透明水彩絵具、不透明水彩絵具の両方もしくはどちらかを使用すること。
2. 描くモチーフはみかんのみとする。
3. みかんは観察のため自由に扱ってよい。ただし解答作品の材料として使用しないこと。

【支給されるもの】

みかん2個、解答用紙（水彩紙・正方形）1枚、試し塗り用紙（水彩紙・長方形）1枚、
構想用紙（コピー用紙・A4サイズ）3枚、みかんを置くための紙（キッチンペーパー）
3枚、手を拭くためのおしぼり1包み

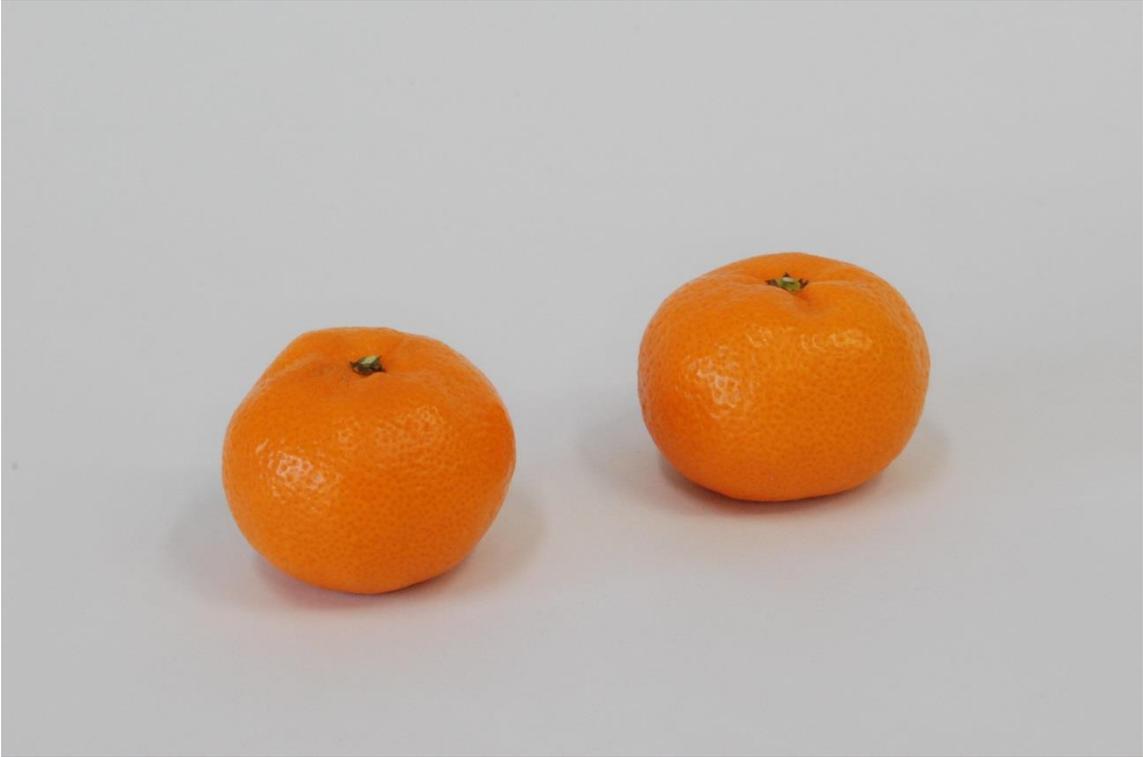
【使用してよいもの】

透明水彩絵具、不透明水彩絵具、筆、筆洗、パレット、絵の具皿、鉛筆、直定規、
消しゴム、カルトン、羽ぼうき、ぞうきん、カッターナイフ、クリップ

【注意】

1. 下描きに鉛筆を使用してもよい。
2. 作業は着席したまま、カルトンの上で行うこと。
3. 解答用紙および試し塗り用紙には、裏面に★印がついている。解答には、★印の付いていない表面を使用すること。

【色彩:モチーフ】



2016年度 実技試験問題

科目 立体

時間 9時00分～12時00分

与えられた人形からの視点に留意した立体作品を作りなさい

●条件

1. 与えられた人形は、一切加工してはいけません。
2. 与えられた人形は 図Aのグレーの範囲内（解答用台から高さ15cmから20cm）に木工用速乾接着剤で設置すること。
3. 与えられた人形はどの方向を向けて設置しても良い。
4. 解答作品には、与えられた人形、スチレンボード、ケント紙、木工用速乾接着剤、紙粘着テープのみを使用しなさい。
5. 支給された解答材料（人形・スチレンボード・ケント紙）は必ず使用すること、ただしスチレンボード・ケント紙はすべて使いきらなくてもよい。
6. 解答作品は解答用台（35cm×35cm）をはみ出さず、また高さ35cmからはみ出さないこと。
7. 解答用台は作品を固定する以外は一切加工してはいけません。また、解答用台および解答作品には描画・着色してはいけません。
8. 試験終了後、解答作品に触れてはいけません。各自移動用カバーをして、解答作品を持ち体育館まで野外や階段など、約300メートルを移動します。
解答作品は持ち運びに耐えるように十分な強度を持たせ、解答用台にしっかりと接着・固定すること。
9. カラーカードは、試験終了前に、監督者の指示にしたがい解答用台の右端に貼ります。

【支給されるもの】

解答用材料：人形1体、A3スチレンボード2枚、A3ケント紙2枚

接着材料：木工用速乾接着剤1個、紙粘着テープ1巻

解答用台：茶色段ボール1枚 35cm×35cm

移動用カバー：茶色段ボール製箱1個、カバー固定用テープ2枚

制作支援用品：灰色ボール紙1枚 40cm×55cm（カッティング・作業用）、上質紙3枚（アイデアスケッチ用）

【使用してよいもの】

上記支給されるもの及び下記の立体受験用具

鉛筆、消しゴム、カッターナイフ、ボールペン、はさみ、直定規（60cm以内のもの）、

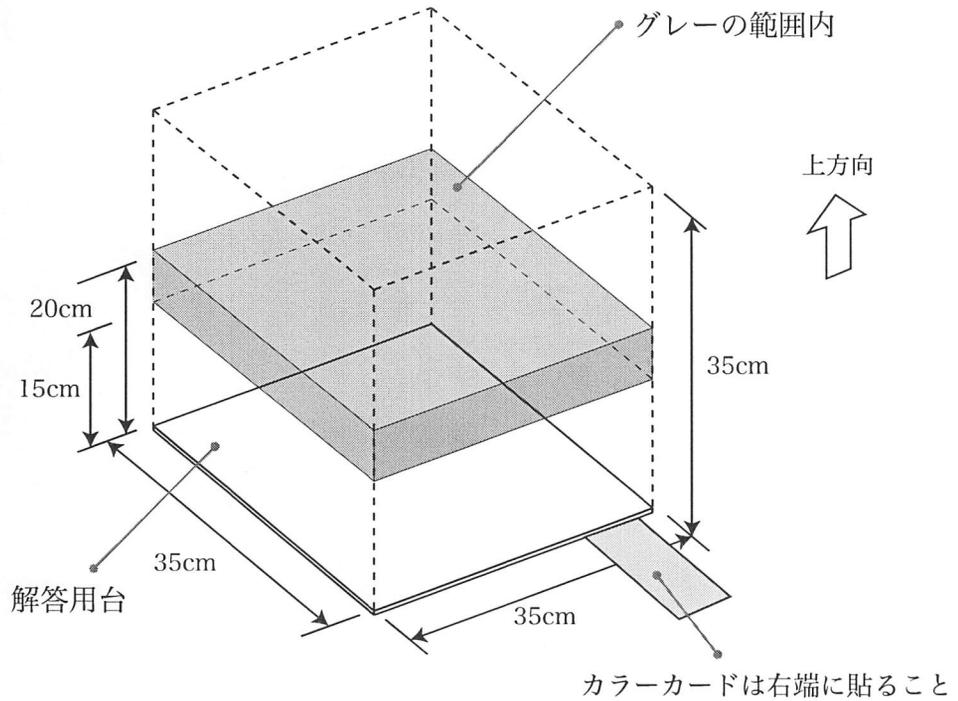
三角定規（30cm以内のもの一組）、分度器、コンパス、粘土へら、ラジオペンチ（刃つきのもの）

【注意】

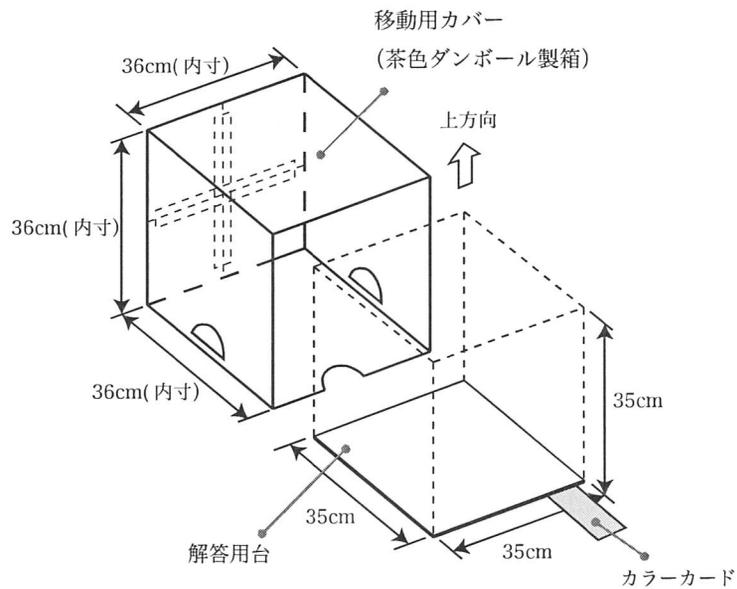
1. 提出作品には、解答用材料及び、接着材料として支給されるもの以外は使用しないこと。
2. 上質紙3枚は、アイデアスケッチ用として使用しなさい。
3. 接着には支給された木工用速乾接着剤、紙粘着テープのみを使用しなさい（カラーカードの接着を含む）。
4. 作業は支給された灰色ボール紙上で行いなさい。
5. 作業は着席したまま行ない、他の受験生の迷惑にならないようにしなさい。
6. 忘れた用具の貸し出しはしません。
7. 怪我のないように慎重に作業しなさい。
8. 試験終了後に移動用カバーをします。移動後体育館において指示にしたがい外します。

● 図 A 人形設置範囲

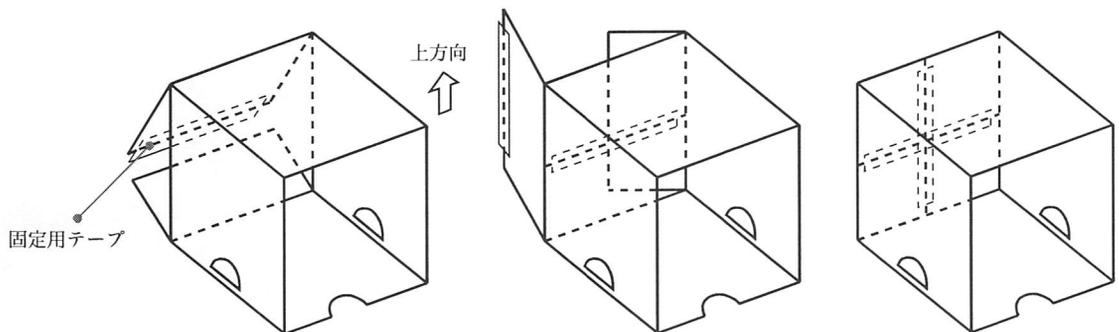
解答用台から高さ 15cm から 20cm の範囲に設置すること。



● 移動用カバー 組み立て説明



移動用カバー（茶色ダンボール製箱）組み立て順序 ① ② ③

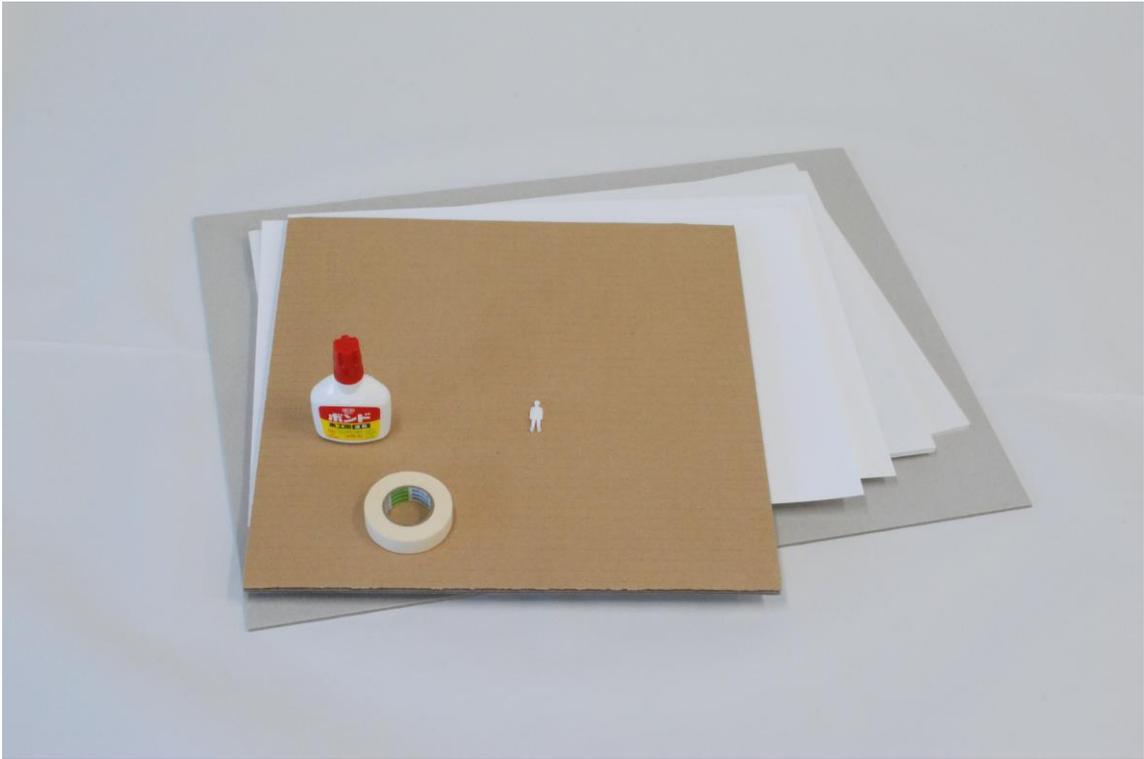


① フタは上下を先に閉じる
カバー固定用テープを外側に貼る

② 左右を閉じる
カバー固定用テープを外側に貼る

③ 左右方向を固定用テープでとめて
移動用カバーは完成です

【立体:モチーフ・解答用材料】



二〇一六年度 総合芸術学科入学試験問題

科目 小論文(二〇〇点満点)

時間 十四時三〇分～十六時三〇分

別紙の問題文は、ヴェルフリン『美術作品の説明』(山崎正和責任編集『近代の藝術論』中央公論社、初版一九七九年、第五版一九九三年)から抜き出したものである。

この文章を読んで、以下の設問に答えなさい。

設問1 文中に、「視ることはなお学習されねばならぬ」とありますが、これについてあなたの考えを述べなさい。

(60点)

設問2 この文章の主旨を四〇〇字以内で要約しなさい。

(60点)

設問3 この文章において、作品を説明するための観点として挙げられている事柄に留意しながら、自由に具体例を設定し、説明を行ってください。
(具体例は美術作品でなくてもよい)。

(80点)

《注意》

- ・ 答案用紙は、表面だけを使用し、裏面は使用しないで下さい。
- ・ 答案用紙は横書きで使用して下さい。
- ・ 答案用紙が足りないときは、試験監督に申し出て下さい。その場合、追加の用紙にも受験番号と氏名を明記して下さい。

【小論文試験問題に係る出典】

1 別紙の文章

ヴェルフリン『美術作品の説明』（山崎正和責任編集『近代の藝術論』，
中央公論社，初版一九七九年，第五版一九九三年）

473 ページ上段 1 行目から 474 ページ上段 2 行目

474 ページ上段 1 1 行目から 476 ページ下段 10 行目

477 ページ上段 2 行目から 477 ページ下段 12 行目

478 ページ上段 1 行目から 478 ページ下段 6 行目

評価のポイント

◆ 描写

以下の項目を総合的に勘案し、基礎的描写力(客観的にものを観る力を含む)を評価した。

- ・モチーフの構成(モチーフをバランスよく配置することができるか。)
- ・画面の構図(配置したモチーフを効果的に画面に収めることができるか。)
- ・形体の把握(モチーフの形や大きさを正しく描くことができるか。)
- ・量感の把握(モチーフの部分と全体の両方を捉えて描くことができるか。)
- ・空間の把握(モチーフとの距離や関係を正しく描くことができるか。)
- ・明暗の把握(モチーフの陰影や明暗の階調を正しく描くことができるか。)
- ・質感と固有色(モチーフの質感や固有色を正しく描くことができるか。)
- ・素材と技法の理解(鉛筆、紙、消しゴムなどの描画材料を活かしているか。)

◆ 色彩

出題内容を理解し、与えられたモチーフを観察しながらイメージを膨らませて、滲みの表現を活かした豊かな色彩と構成力で、独創的な表現であるかを評価した。

◆ 立体

人形からの視点を考え、設置する位置や方向、それによってできあがる空間を工夫した立体作品ができていたかを評価した。

◆ 小論文

設問1

問題文中にある、「視ることはなお学習されねばならぬ」という主張に対して、解答者自身の見解を問う設問である。本文中には、これと対立する考えも提示されているが、評価に際して重視したのは、賛否のような単純な結論ではもちろんなく、自らの思考の内容やその論拠を、具体例や反論なども織り交ぜて、読み手に伝達することができるかという点である。文章力と同時に、着眼点や論旨展開なども評価の重要なポイントとなる。

設問2

問題文の趣旨を 400 字で要約する設問である。問題文には独特の喩えや言い回しも出てきますが(例えば「天と地が合してどんな図柄を作っているか」、「作用を感じ取るための器官を自分のうちに発達させねばならない」など)、それらを字義どおりに引き写してまとめるのでは、端的な要約にはならない。内容を的確に理解し、所定の文字数に適した仕方で、客観的にまとめる能力を評価した。

設問3

自由度を高くした設問で、具体的な作例の説明でも、あるいは問題文で述べられている事柄を別の事例を用いて説明し直すということでも、解答の方向性としては適切である。ただし、解答の条件として明記されている「この文章において、作品を説明するための観点として挙げられている事柄に留意しながら」ということが十分に満たされていることは肝要である。自身が詳しく述べられる事例を探すことに終始し、与えられた文脈や話の内容とかみあわない知識の披瀝に終わるようでは、高得点は望めない。文章を読んだうえで論述するという出題には、単なる知識の有無ではなく、文脈や相手の論理に応じて、それらを適切に応用できるという対話的能力への期待もこめられている。また設問1、設問3ともに、具体例や論旨の展開を見るということは、文章の量的な充実も期待しているということである。

2016年4月

京都市立芸術大学 事務局 入試担当

〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町 13-6

Tel 075-334-2238

Fax 075-334-2281

<http://www.kcua.ac.jp>